

2024 年度 決算・経営説明会 質疑応答（要旨）

- Q1：** 第 3 四半期決算において、進捗は堅調との話だったにもかかわらず、2024 年度の営業利益は 197 億円で、計画 230 億円に対し未達となった。要因を教えてください。
- A1：** 八代工場の回収ボイラーが 2024 年 12 月に噴破し、現在も復旧していない。クラフトパルプを製造できず外部からの購入となったことや、原動バランスが崩れたことでコストアップとなった。また、輸出を含めた紙・板紙の販売数量にも影響し、第 4 四半期だけで 10 億円強の下振れ要因となった。これに加え、国内の生活関連事業において数量が伸び悩んだことが要因である。
- Q2：** Opal で減損が発生しているが対象を教えてください。
- A2：** 対象は、Opal（旧 Orora）買収時ののれん。
- Q3：** Opal のパッケージング事業が 2025 年度上期に再び赤字になるのはなぜか。
- A3：** 第 1 四半期に発生した労働争議の影響。労働争議によりメアリーベール工場の生産が止まったため、原紙の販売のバックアップをパッケージ事業で行った。そのため、販売構成が悪化し、販売数量も減少した。また、2 月頃から段ボールの売上が少し落ちている。これらの影響を加味している。
- Q4：** 紙・板紙事業の値上げに関する考え方について教えてください。
- A4：** 2025 年度の業績予測には、既に発表している品種以外の値上げは織り込んでいない。ただし、安定生産のための再生産可能な適正価格についての見極めは必要。今後、固定費が割高になってくる局面も想定されるので、当然値上げは検討している。
- Q5：** 米国による関税影響について教えてください。
- A5：** 直接的な取引においては大きな影響はないと見ている。一番の懸念は世界経済の減退。全体の需要が落ち込むと、紙・板紙を含めて影響を受ける可能性がある。今後の動向は注視しないといけない。
- Q6：** 2025 年度は 5 円増配の見込みだが、配当に対する考え方を教えてください。
- A6：** 財務状況等を勘案した上で、安定配当を継続するのが基本方針。今後の業績予想等を踏まえた上で増配を決定した。ただ、事業構造転換を完全にやり切っているとは言えないと思っている。その点も考慮した。
- Q7：** 2025 年度の NDP は営業利益が 76 億円改善する見通しだが、その確からしさを教えてください。
- A7：** 努力目標は織り込んでいないので、生産・販売を計画通りに進めていくことで十分に達成可能だと考えている。

- Q8：** 国内の生活関連事業は、コストアップが続く中で、値上げの成否が重要なポイントになると考えている。現在の値上げの進捗について教えてほしい。
- A8：** 液体用紙容器と家庭紙については、すでに値上げのアナウンスを行い、お客さまにお願いをしているところ。そのため、詳細を話すことはできないが、お客さまにご理解いただけるよう取り組んでいる。

以上